

現行航空保安システム

1. 管制施設

- (1) ASR、ARSR、ORSR
- (2) 管制卓とレーダー表示画面
- (3) 航空路監視レーダーの表示例
- (4) PAR
- (5) ASDE
- (6) 対空通信施設
- (7) 管制情報処理システム
 - FDP
 - RDP
 - ARTS
 - ODP
 - ATFM
 - スポット総合調整サブシステム

2. 航空保安施設

- (1) NDB
- (2) VOR / DME / TACAN
- (3) ILS
- (4) 精密進入の高カテゴリー
- (5) 航空灯火システム概念図
- (6) 航空機地上走行用航空灯火システム

3. 航空交通情報システム

4. SDECC

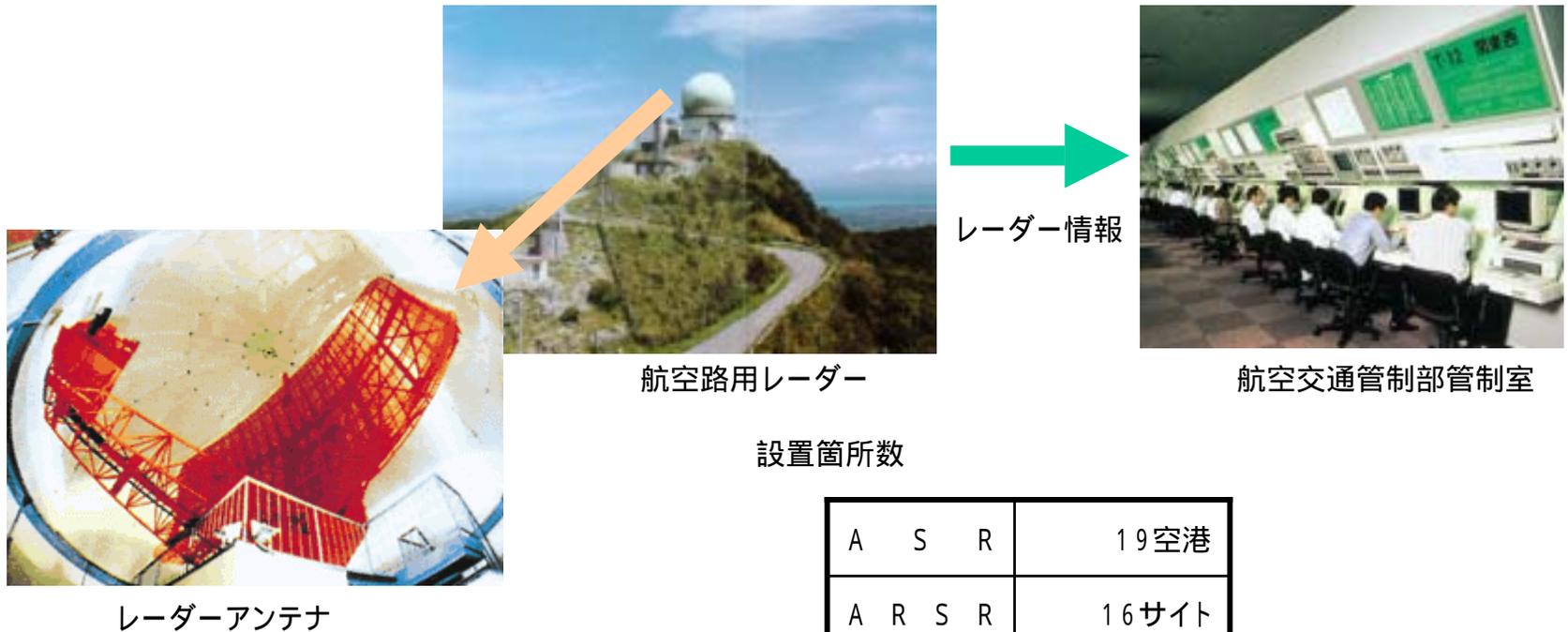
1. 管制施設

(1) ASR (Airport Surveillance RADAR: 空港監視レーダー)

ARSR (Air Route Surveillance RADAR: 航空路監視レーダー)

ORSR (Oceanic Route Surveillance RADAR: 洋上航空路監視レーダー)

ARSRは、航空路用でレーダーサイトから200nm(約370Km)、ASRは、空港用で約60nm(約110Km)以内の空域にある航空機の位置を探知し、航空機の誘導、航空機相互間の間隔設定等レーダーを使用した管制業務に使用される。なお、ORSRはARSRの覆域が不足している洋上空域にある航空機を監視するためのものでレーダーサイトから250nm(約460Km)以内の空域にある航空機を探知できる。

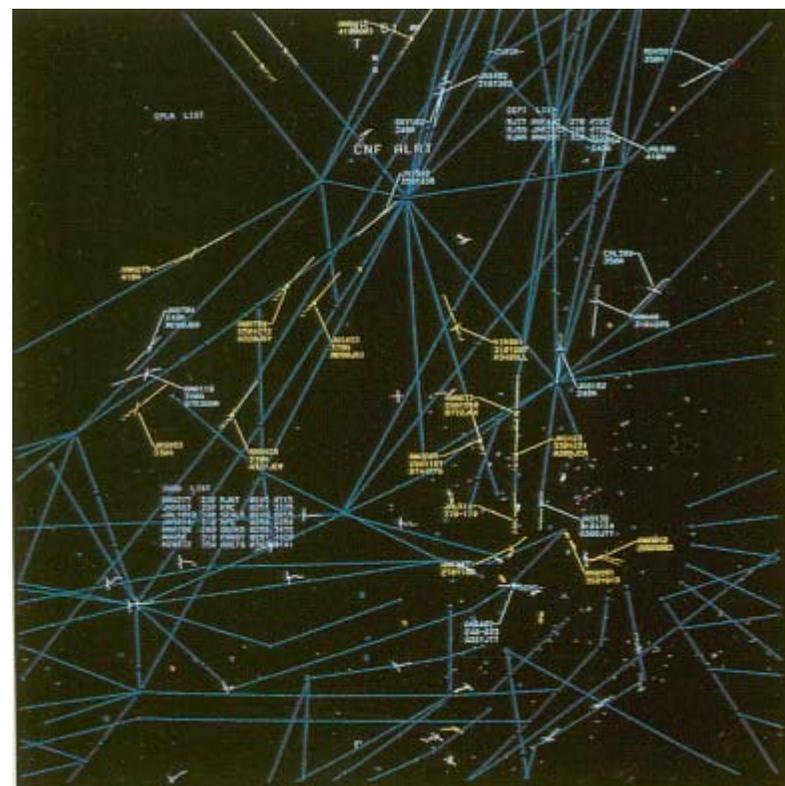


設置箇所数

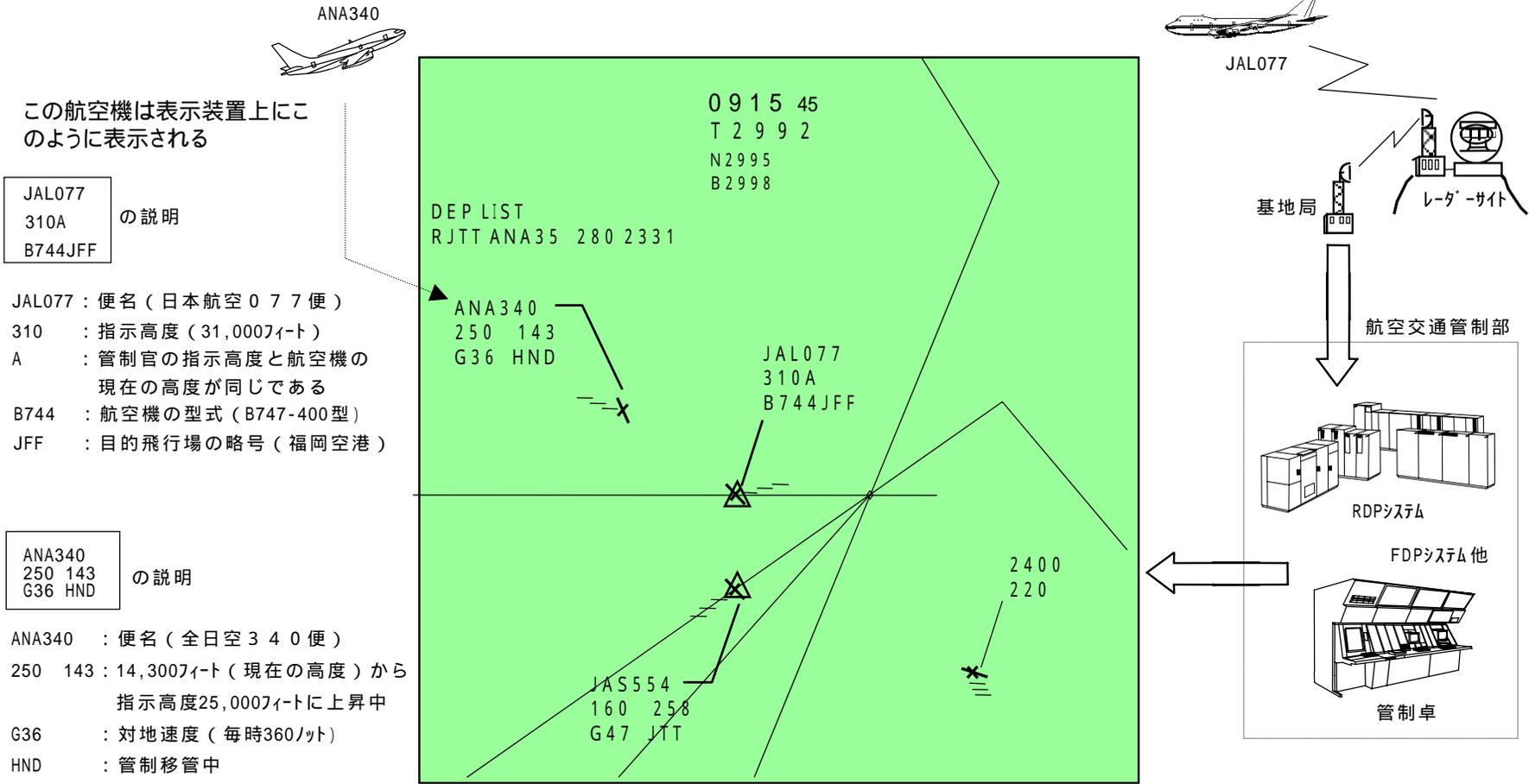
A S R	19空港
A R S R	16サイト
O R S R	4サイト

(米軍及び防衛庁設置は含まない)

(2) 管制卓とレーダー表示画面



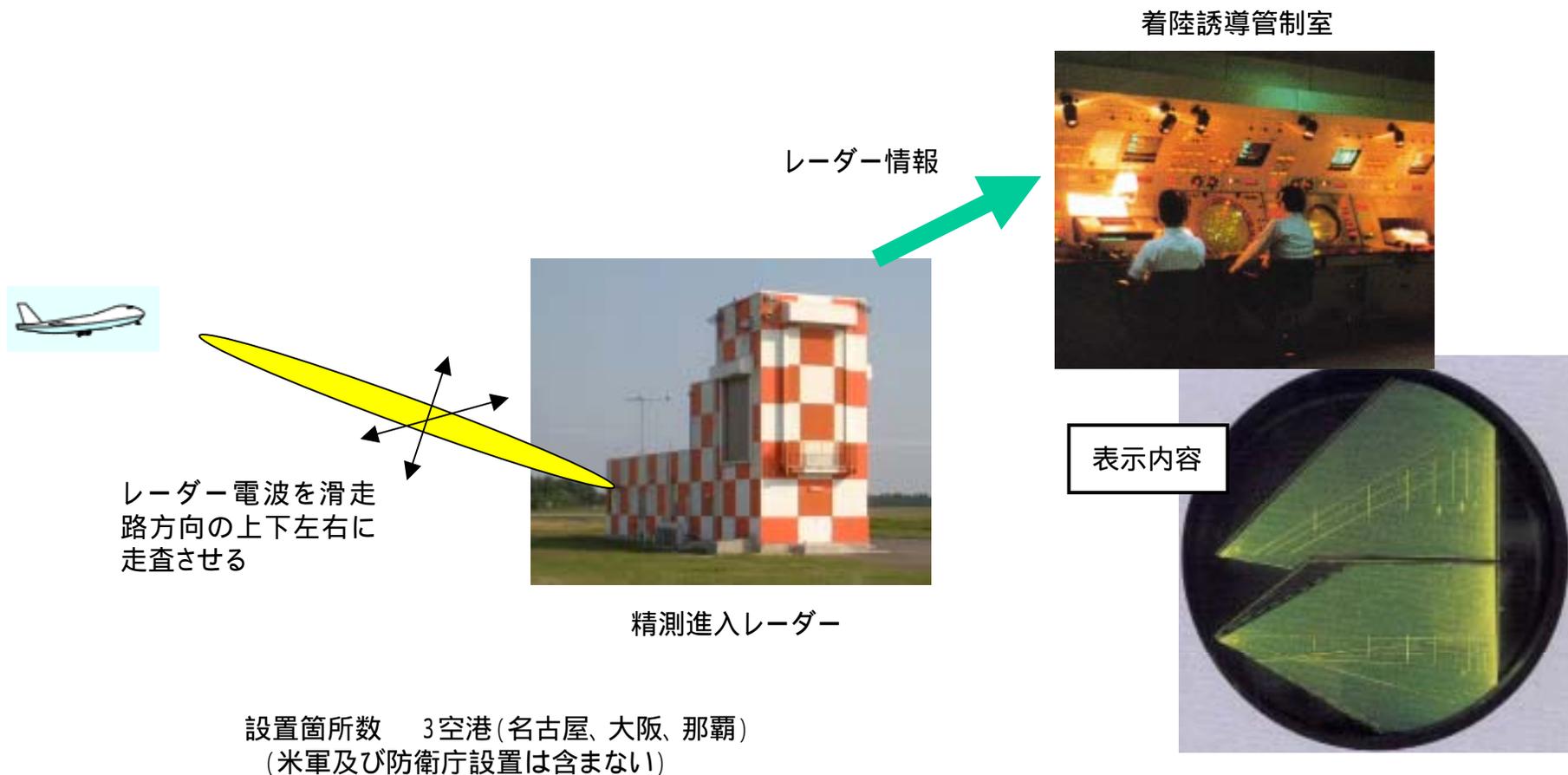
(3) 航空路監視レーダーの表示例



表示画面 (デジタルモード)

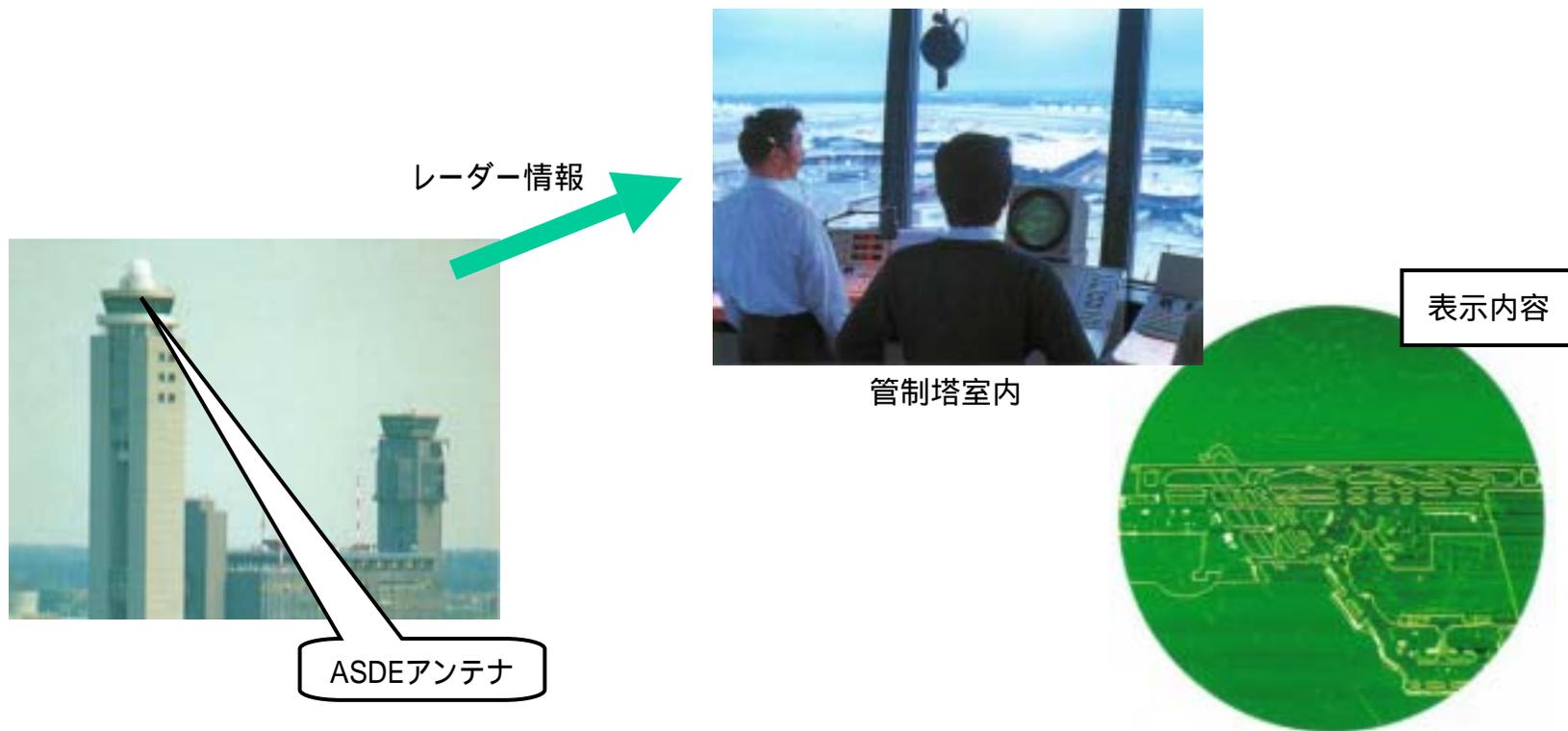
(4) PAR (Precision Approach RADAR: 精測進入レーダー)

計器飛行方式で最終進入する航空機の進入路及び降下路からのずれ並びに設置点までの距離を探知し、安全に着陸させるよう誘導する。



(5) ASDE (Airport Surface Detection Equipment 空港面探知レーダー)

空港地表面の航空機や車両等の動きを監視し、それらの交通の安全を図るための高分解能レーダーで、飛行場管制業務に使用される。



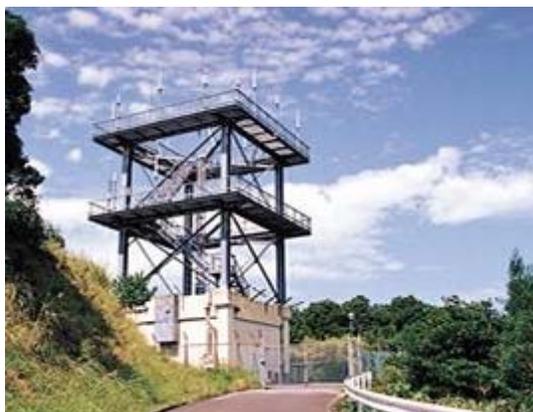
設置箇所数 7空港
(成田、羽田、名古屋、大阪、関西、福岡、那覇)
(米軍及び防衛庁設置は含まない)

(6) 対空通信施設

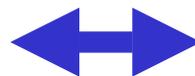
TOWER

RCAG (Remote Center Air-Ground communication)

航空機パイロットと管制官が直接通信を行うための対空通信施設であり、空港用 (TOWER) と航空路用 (RCAG) がある。



RCAG



音声通信



航空交通管制部管制室

設置箇所数

TOWER	24 空港
RCAG	41 サイト

(米軍及び防衛庁設置は含まない)